

ユダヤ学・ユダヤ教からみたパウロ  
同志社大学神学部：勝又悦子

1. ユダヤ学からみたパウロ：扱い少ない⇒イエスについては比較的多い  
A. Geiger, L. Beack, M. Buber  
D. Flusser, S. Safrai, E. E. Urbach, D. Schwartz  
イエスについてはユダヤ教との連続性を見出しながら、パウロについては典型的キリスト教として(Ex. パウロのアブラハム像)、ユダヤ教から出てしまった人  
⇒パウロ研究における同時代のユダヤ教との関連：かなり盛ん
2. ユダヤ教からみたパウロ  
タルソスのサウロ、パウロ、タルソスの言及もなし。意図的な沈黙？  
⇒ ラビ・ユダヤ教文献におけるイエス：「イエシュ」として多少の記載はあり（ただし、時代的に問題あり。史的イエスを語るものではない）。  
⇒原始キリスト教団への言及「ミーニーム」はあり。  
原始キリスト教団の信者を象徴する名前：ヤコブ ex シクニン村のヤコブ
3. どうアプローチするか  
・パウロの一つの特徴：異教徒・異邦人／ユダヤ人の狭間にあること  
・ユダヤ学でのパウロの関心の薄さ⇒ユダヤ学—特にラビ・ユダヤ教時代のユダヤ学のエレッツ・イスラエル中心主義のバイアスがあるのかも。  
・パウロの直接的な史的裏付けになるわけではないが、パウロと同時代のラビ文献における異教徒・異邦人との関係を探ることは、同時代社会のなかでのパウロの異教徒・異邦人観の背景、また、ラビ・ユダヤ教自体の多様性を知ることにもなるのではないか。  
・ユダヤ教からみたときのパウロの斬新な変革点  
ローマ人への手紙 14.4～  
「それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものです。」  
「食べ物のために神の働きを無にすることはなりません。すべては清いのですが、食べて人を罪に誘う者には悪い物になります。」「疑いながら食べる人は、確信に基づいて行動していないので、罪に定められます。確信に基づいていないことは、すべて罪なのです」。  
コリント信徒への手紙 8.4  
「そこで、偶像に供えられた肉についてですが、世の中に偶像の神などはなく、また唯一の神以外にいかなる神もないことを私たちは知っています」  
それ自体けがれたものはない、偶像の神はない⇒すべては気持ち次第：ユダヤ教の様々なハラハーを全否定する可能性があるのではないか・・・信仰の根幹にも関わる？  
大事なのは、気持ち・・・良心・・・信仰・・・信仰のみ  
  
他方で、同時代のユダヤ法規議論の中にも、「気持ちが大事」議論の萌芽があったのではないか。「意図」「意識」の重要性を暗示する議論：  
しかも、それは、異教徒との関係の中で生じたものではないか。
4. ミシュナにおける異邦人・異教徒  
1) ミシュナ：ユダヤ教生活の規範（ハラハー）の集大成  
70年エルサレム第二神殿崩壊以降、神殿祭儀からトーラー（聖書）の学びへとユダヤ教の中心がシフト。学塾にて伝承の収集、口伝で継承（口伝トーラー）。  
当初の収集の中心になったのがハラハー。

ハラハーについての議論を200年に集大成⇒『ミシュナ』  
『ミシュナ』についての議論が、後代の『タルムード』へ。  
トセフタ：同様の律法集『ミシュナ』に入りきらなかった伝承群

2) 用語の区別がある？

- ・異教徒：オベド・コハビーム： עובד כוכבים 星々の崇拜者 英訳 gentile
- ・異邦人：ノクリー נכרי

ヘブライ語聖書でいうところのゴイ גוי。しかし、『ミシュナ』では「ゴイ」という単語が私見ではほとんどない。「多神」崇拜であることをにおわせる用語 עובד כוכבים を使う。  
または、 נכרי

ただしトセフタでは、ゴイ גוי

- ・異教(偶像)崇拜：アボダー・ザラー עבודב זרה 物理的な偶像そのものを指すことが多い。

- ・ユダヤ教内部の異端者：ミン/ミーニーム： מין

ミーニームと異教徒が混同されたり、同時に議論されることは『ミシュナ』ではない。

3) 実生活に関わる切実な実際的な問題がメイン(神学的というよりも)

⇒『ミシュナ』アヴォダー・ザラーの篇：ユダヤ教徒と異教徒の実生活上での接触の際の対処法：農業、手工業上の協同作業に際して、土地、商売上の取引→特に、食べ物の問題、作物の収穫のうちの献上物分について、偶像に献げられる可能性、安息日を巡って・・・。

<p>משנה מסכת שבת פרק א בית שמאי אומרים אין נותנין עורות לעבדן ולא כלים לכובס עובד כוכבים אלא כדי שיעשו מבעוד יום ובכולן בית הלל מתירין עם השמש:</p>	<p>①シャバット 1.8 シャンマイ学派は言った。(異教徒に)何も与えてはならない。器も、異教徒の洗濯屋に与えてはならない。その日の仕事をするだけの見込みがあった場合のみよい。すべてについてヒレル学派は許した。</p>
<p>משנה מסכת שבת פרק א אמר רבן שמעון בן גמליאל נוהגין היו בית אבא שהיו נותנין כלי לבן לכובס עובד כוכבים שלשה ימים קודם לשבת ושיוין אלו ואלו שטוענים קורות בית הברד ועגולי הגת:</p>	<p>②シャバット 1.8 ラバン・シメオン・ベン・ガマリエルが言った。私の父の家では、次のようにしていたものだ。白い衣類を、異教徒の洗濯屋に安息日の三日前に渡していたものだった。シャンマイ学派もヒレル学派も一致しているのは、ともに、油の压榨屋と葡萄酒の压榨のローラーについてである。</p>
<p>משנה מסכת זרה פרק א משנה ח [ח] ואין עושים תכשיטין לע"ז קוטלאות וזממים וטבעות רבי אליעזר אומר בשכר מותר אין מוכרין להם במחובר לקרקע אבל מוכר הוא משיקצץ רבי יהודה אומר מוכר הוא לו על מנת לקוץ אין משכירין להם בתים בארץ ישראל ואין צריך לומר שדות ובסוריא משכירין להם בתים אבל לא שדות ובחוץ לארץ מוכרין להם בתים ומשכירין שדות דברי רבי מאיר רבי יוסי אומר בארץ ישראל משכירין להם בתים אבל לא שדות ובסוריא מוכרין בתים ומשכירין שדות ובחוצה לארץ מוכרין אלו ואלו</p>	<p>③アボダー・ザラー1.8 偶像(アボダー・ザラー)のために誰も飾りを作ってはならない。ネックレス、耳飾り、指輪である。ラビ・エリエゼルは言った。報酬のためなら許される。彼らに、地面についているものを売ってはならない。ただし、それが刻まれてからなら許される。ラビ・イエフダは言った。それが刻むという条件で彼ら(異教徒)に売ることができる。イスラエルの地で彼らに家を貸すことはできない。言うまでもないが畑も、である。シリアで彼らに家を貸していた。しかし、畑は貸していた。しかし、イスラエルの地の外では、彼らに家を売り、畑を貸していた。ラビ・メイルの言葉である。ラビ・ヨシは言った。イスラエルの地では、彼らに家を貸したが畑は貸していない。シリアでは家を売り、畑を貸していた。イスラエルの地の外では、どちらも売ることができた。</p>

異教徒とユダヤ人共同体の間の実際的な生活のやりとりがあったということ。

かなりお互いの慣習を具体的に知っていた。生活の中で密接で具体的なコンタクトがあったのではないか。Ex. 祝祭日、様々な慣習の熟知

4) 異教徒議論の中から「意図の有無」(「未必の故意」) 議論が展開?

<p><b>משנה מסכת שבת פרק טז</b></p> <p>עובד כוכבים שהדליק את הנר משתמש לאורו ישראל ואם בשביל ישראל אסור מלא מים להשקות בהמתו משקה אחריו ישראל ואם בשביל ישראל אסור עשה עובד כוכבים כבש לירד בו יורד אחריו ישראל ואם בשביל ישראל אסור מעשה ברבן גמליאל וזקנים שהיו באין בספינה ועשה עובד כוכבים כבש לירד בו וירדו בו רבן גמליאל וזקנים:</p>	<p>④ミシュナ・シャバット 16.8</p> <p>もし、異教徒が[安息日に]灯を点けたら、[その灯は]イスラエルのために使うことはできるが、しかし、もしそれがイスラエル人のために点けたのなら、それは[使用することは]禁止される。もし彼が自分の家畜に飲ませるために水をいっぱいにしたなら、彼のあとに、イスラエル人は水を飲ませることはできる。しかし、それをイスラエル人のためにしたのなら、禁じられる。異教徒が羊を通らせたなら、その後をイスラエル人も通させることはできる。しかし、もしイスラエル人のためにしたのなら、それは禁じられる。長老ラバン・ガマリエルのエピソード。かつて船にのっていた。そして、異教徒が羊を下ろさせた。ラバン・ガマリエルはその後を下ろさせた。</p>
<p><b>משנה מסכת עבודה זרה פרק א משנה ה</b></p> <p>[ה] אלו דברים אסורים למכור לעובד כוכבים אצטרובלין ובנות שוח ופטטורותיהן ולבונה ותרנגול הלבן רבי יהודה אומר מותר למכור לו לבן בין התרנגולין ובזמן שהוא בפני עצמו קוטע את אצבעו ומוכרו לו לפי שאין מקריבין חסר לע"ז ושאר כל הדברים סתמן מותר ופירושן אסור רבי מאיר אומר אף דקל טב וחצב ונקליבם אסור למכור לעכו"ם</p>	<p>⑤アボダー・ザラー1.5</p> <p>以下、異教徒に売ることが禁止されているもの。もみ殻、種と茎のついた白いイチジクの類、乳香、白の鶏。ラビ・イエフダは言った。彼に、白い鶏を他の鶏と混ぜて売ることにはできる。もしくは、それ自体の指を切断したものを彼に売ることにはできる。というのは、それらは偶像崇拜のためにささげられることはないからだ。他のすべてのものは、もし、それが、無目的ならば許されるが、もし、その疑いがあるならば、禁止される。ラビ・メイルは言った。よいナツメヤシ、ハザブやニコラスやしを彼らに売ること禁止されている。</p>
<p><b>משנה מסכת נגעים פרק ג משנה א</b></p> <p>[א] הכל מיטמאין בנגעים חוץ מן העובדי כוכבים וגר תושב הכל כשרים לראות את הנגעים אלא שהטומאה והטהרה בידי כהן אומרים לו אמור טמא והוא אמר טמא אמור טהור והוא אמר טהור אי':</p>	<p>⑥ネガイム 3.1</p> <p>すべて、皮膚病で穢れる。異教徒、寄留者以外は。すべての人は、皮膚病の検査において適格である。ただ、穢れているか、清いかは、祭司による。彼(祭司)に、「穢れていると言え」と言い、彼は「穢れている」と言う。「清いと言え」と言って、彼は清いと言う。・・・</p>
<p><b>משנה מסכת נגעים פרק יא משנה א</b></p> <p>[א] כל הבגדים מיטמאין בנגעי' חוץ משל עכו"ם הלוקח בגדים מן העכו"ם יראו בתחלה ועורות הים אינן מיטמאין בנגעים חיבר להם מן הגדל בארץ אפילו חוט אפי' משיחה דבר שהוא מקבל טומאה טמא</p>	<p>⑦ミシュナ・ネガイム 11.1</p> <p>すべての衣類は皮膚病でけがれる。異教徒の衣類以外は。異教徒から衣類を購入したものは、確かめて(皮膚病のしるしを)、新たに作る。海の生き物は皮膚病でけがれない。しかし、陸のものをつないだならば、たとえそれが綱や、コードであっても、けがれを受けるものであれば、穢れる。</p>

安息日を冒瀆する意図あり、またはその危険を察知した上での行為は、安息日を冒瀆  
→そうでなければOK

偶像にささげる意図あり、またはその危険を察知した上での行為は、偶像崇拜に加担  
→そうでなければOK

穢れは受け手次第・・・すべてのものはそれ自体が穢れているわけではない。

<p><b>משנה מסכת עבודה זרה פרק ד [ז] שאלו את הזקנים ברומי אם אין רצונן בע"ז למה אינו מבטלה אמרו להן אילו לדבר שאין</b></p>	<p>⑧アボダー・ザラー4.7</p> <p>ローマで長老たちに尋ねた。もし、アボダー・ザラがかの</p>
---	---

<p>צורך לעולם בו היו עובדין היה מבטלו הרי הן עובדין לחמה וללבנה ולכוכבים ולמזלות יאבד עולמו מפני השוטים אמרו להם אם כן יאבד דבר שאינ צורך לעולם בו ויניח דבר שצורך העולם בו אמרו להן אף אנו מחזיקין ידי עובדיהם של אלו שאומרים תדעו שהן אלוהות שהרי הן לא בטלו</p>	<p>方の意志でなければ、なぜ、かの方はそれを破棄しないの だろう。彼らに言われた。「もし、決して必要のないとい うなら、それを破棄しただろう。そして、彼らは太陽を、 そして月を、そして星々を、そして星座を崇拜するだろう。 では、かのお方は、自分の世界を愚か者のために滅ぼすだ ろうか。」彼らに言った。「もしそうであるならば、世界に 決して必要のないものを滅ぼしてしまおう。そして、世界 に必要なものだけにしよう。」彼らに言った。「しかし、私 たちも、これらが神であることを知りなさいという彼らの 崇拜者たちによって強くなる。それで、それらは破棄にな らない。」</p>
<p>משנה מסכת עבודה זרה פרק ב משנה ב [ב] מתרפאין מהן רפוי ממון אבל לא רפוי נפשות ואין מסתפרין מהן בכל מקום דברי רבי מאיר וחכמים אומרים ברשות הרבים מותר אבל לא בינו לבינו</p>	<p>⑨ミシュナ・アボダー・ザラ 2.2 彼らから物質的な癒しをうけてもよいが、霊的な癒しをう けてはならない。どんなところでも、彼らに髪を切っても らってはならない。ラビ・メイルのことば。賢者たちは言 った。公共の場面ならば許される。しかし、彼と彼の中だ け[彼がひとりであったら]ではそうではない。</p>

パウロの議論：

パウロ：異教徒とユダヤ教社会の境界：異教徒との関係性の議論が切実だった境界にいた。パウロ自身、ユダヤ法議論に精通していはたはず・・・食べ物、安息日、偶像をめぐる。ラビ・ユダヤ教の議論の中にも同じ傾向がある。何が分けたか

イエス：ユダヤ人社会内の地位的境界の中から変革

パウロは：異教徒 v s ユダヤ社会という境界の中から変革、教会を拡大したのではないか。

#### 参考文献

- R. Bieringer and D. Pollefeyt eds., *Paul and Judaism: Crosscurrents in Pauline Exegesis and the Study of Jewish-Christian Relations*, T&T Clark, London, New York, 2012  
G. Boccaccini & C. A. Segovia, *Paul the Jew: Reading the Apostle as Figure of Second Temple Judaism*, Fortress Press, Minneapolis, 2016  
D. Flusser, *Judaism and the Origins of Christianity*, The Magnes Press, Hebrew University, Jerusalem, 1988  
S. Heschel, *Abraham Geiger and the Jewish Jesus*, The University Chicago Press, Chicago 1988  
F. A. Rothschild ed., *Jewish Perspective on Christianity*, Continuum, New York, 1990  
K. Stendahl, *Paul among Jews and Gentiles*, Fortress Press, Minneapolis, 1976  
D. R. Schwartz, *Studies in the Jewish Background of Christianity*, J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), Tübingen, 1992  
E. E Urbach, *The Sages: Their Concepts and Beliefs*, The Harvard UP, 1987  
R. S. アスコー(村山盛葦訳)『パウロの教会はどう理解されたか』日本基督教団出版局、2015年